

つるみ在宅ケアネットワーク 第24回合同勉強会報告書

日 時 令和3年6月26日(土) 14:00~15:20
場 所 医師会3F会議室
開催方法 Zoom活用 ハイブリッド開催

14:00~ 司会進行

鶴見区在宅医療連携拠点担当医師 佐藤 忠昭



14:05~ 開会挨拶

鶴見区医師会理事長 芝山 幸久



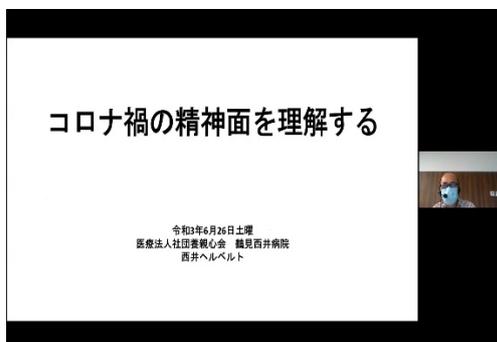
14:10~ 鶴見区在宅医療連携拠点「さわやか相談室」令和3年度 前期 事業報告
<報告者>

鶴見区在宅医療連携拠点さわやか相談室 管理者 鈴木 志律江

- 1.相談件数
- 2.つるみ在宅ケアネットワーク 連携ノート配布冊数
- 3.多職種勉強会：合同勉強会・緩和ケアスキルアップ研修（動画配信）
摂食嚥下編研修（オンライン研修）
- 4.市民一般向け第17回公開勉強会
- 5.タウンニュースによる広報
- 6.ハナミズキ会 報告
- 7.つるみ在宅ケアネットワーク運営会議
・推進検討委員会・企画部会 6月開催

14:15～ テーマ「コロナ禍の精神面を理解する」

医療法人社団養心会 鶴見西井病院 院長 西井 ヘルベルト先生



講演の内容

- ・ 感染症の歴史
- ・ 最初に：コロナ禍による日常の大きな変化
- ・ 社会への影響とストレス：医療者への影響・社会への影響
- ・ 生活の変容：旅行、国際交流の制限, リモートワーク, 自粛生活と依存, 高齢者の生活, 日々の生活の変化, 自殺の問題, 教育・学生への影響
- ・ コロナ禍が子供の心に与えた影響
- ・ コロナ禍で増えていく病態
- ・ うつ病
- ・ 新型コロナウイルス感染症でうつが増えている理由
- ・ うつ病の診断基準
- ・ 抑うつ気分
- ・ 興味・関心や喜びの喪失
- ・ 体重あるいは食欲の変化
- ・ 睡眠の変化
- ・ 精神運動の抑制、焦燥
- ・ 疲労感または気力の減退
- ・ 無価値観あるいは自責感
- ・ 思考力や集中力の減退、決断困難
- ・ 自殺念慮・自殺企図
- ・ うつ病に伴う妄想
- ・ 適応障害
- ・ うつ状態の方への対応とポイント
- ・ 周囲ができるサポート
- ・ 新型コロナウイルス感染症に伴う自殺, 自殺のサイン, 自殺の危険因子, 自殺発見時の対応

15:00～ 質疑応答



ズーム参加者 質疑応答



鶴見区医師会 3F 会議室

Q1：訪問看護師：希死念慮のある方に実際の事を聞いた後、どう対応したら良いか。

A1：西井医師：傾聴していただいて、その方の症状について、本人に話をして専門の病院を進めて良い。

Q2：内科医師：うつ病と適応障害の区別がつかなく同じように思える。

A2：西井医師：適応障害は、はっきりとした心理的社会的ストレスに対する反応で診断基準は半年と考える。長期にわたる診断ではなく、その後は、うつや、不安障害などと、症状で考えられる。

Q3：内科医師：認知症の方でも食欲が落ちて気持ちが沈んでとなると認知症と、うつとの区別がつかなくなる時がある。

A3：西井医師：単純に老年期うつとあるので、老年期のうつは認知症とミックスの場合があると思われれます。

Q4：外科医師：自殺企図の気持ちを聞く場合、死にたいと思いますか？とザクっとフランクに聞いてしまいますが、それでいいでしょうか。

A4：西井医師：それでいいと思います。タブーではないので、傾聴していただいて深刻であるなら専門の病院を勧めていいです。

15:15～ 閉会のあいさつ

鶴見区在宅医療連携拠点担当医師 佐藤 忠昭

15:20 終了

参加人数

参加者総数：66名（講師含む）

Zoom参加者：53名

集会参加者：13名